



家庭教育について（平成 22 年 3 月）

子供の成長にとって、最も大事なものは、家族からの愛情であり、家庭における安心感、安定感が、子供の心を豊かに育てていくのだと思います。

昨今、社会問題となっているいじめや無差別殺人事件、少年の凶悪犯罪などは、その背景に家族・家庭の絆の崩壊や解体があることは、既にこれまでも言われていますが、私は、家庭の絆の崩壊は、子供たちの生活環境の悪化を増長するという思いを持ち続け、家庭教育は重要だと強く思っています。

藤井教育長さんには、この3月末をもってご退任とのことでした。2期8年の長い間、山口県教育行政の発展に大変なご尽力をいただき誠にありがとうございました。

ご退任にあたり、家庭教育のあり方について、また、その重要性について、教育長さんのお考え、また、その熱い胸の思いを、改めてお聞かせいただきたいと思います。

【藤井教育長 答弁】

家庭は、子どもの心の拠り所であると同時に、基本的な生活習慣や思いやりの心、規範意識などを身につける場として、重要な役割を担っております。こうした家庭における教育を基盤に、生き方や職業観、自信や意欲が培われ、まさに教育の原点であると考えております。

都市化、少子化、核家族化、雇用環境の変化など、家庭を取り巻く環境が大きく変化する中で、家庭の教育力の低下が大きな課題となっております。

また、今の子育て世代について、子育てに不安を抱え、孤立しがちな状況もみられますことから、個々の親だけの問題として捉えるのではなく、社会全体で家庭を支援する必要があると考えております。

現在策定中の新たな実行計画におきまして、家庭教育を重点プロジェクトの一つに位置付け、家庭の教育力の向上を図ることとしております。

家庭教育においては、私たち一人ひとりが家族や地域との絆を深め、「社会の宝」である子どもたちが健やかに成長し、夢や目標に向かって努力する、しっかりとした「生きる力」を育てていくことが大切であると考えております。